

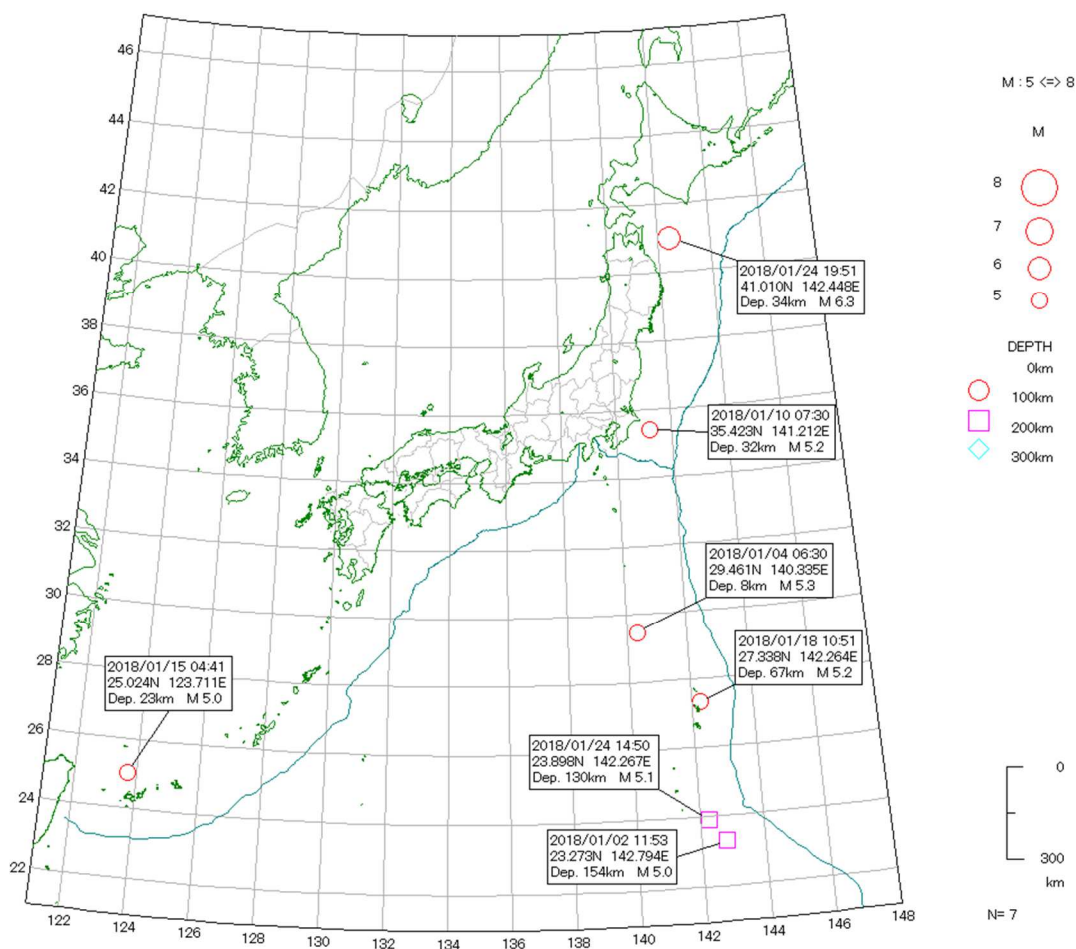


2018年1月、2月の地震活動概観

今週は2018年1月と2月の日本列島およびその周辺の地震活動についてまとめてみたいと思います。1月にマグニチュード5を超えた地震は下の図の範囲で7個発生しました。これは通常の活動の範囲でした。

ちなみに1月に発生した地震の中で最大の地震は1月24日に青森沖で発生し、最大震度4を観測したマグニチュード6.3の地震だけでした。それ以外にはマグニチュード6を超える地震は発生しておらず、地震活動としては静穏な一ヶ月でした。

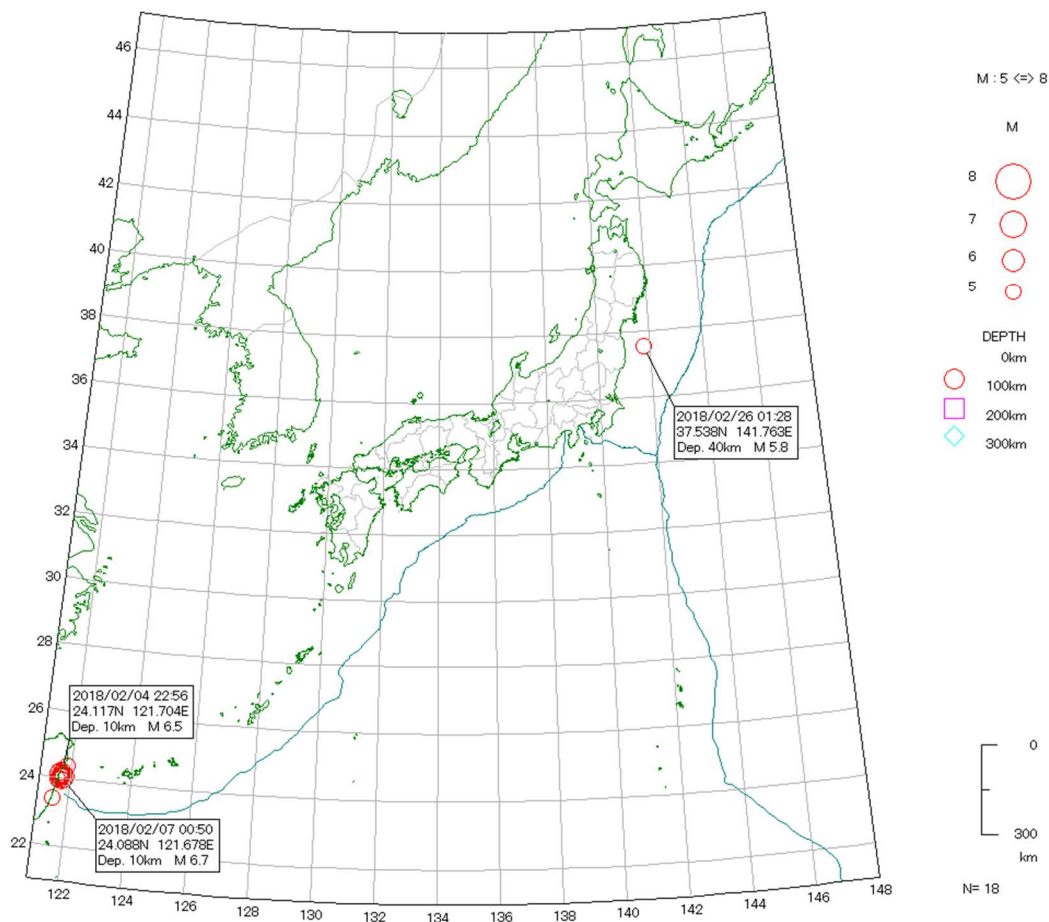
2018 1/1 0:0 -- 2018 1/31 23:59



2018年2月で目立った活動は台湾・花蓮沖発生し、多くの死傷者を出す事になったマグニチュード6.7の地震を中心とした激しい活動でした。花蓮沖ではこの本震が発生する前から、4日のマグニチュード6.5を筆頭に地震が続いており、熊本地震と同じような前震-本震型の地震活動となりました。花蓮沖では前述のマグニチュード6.7, 6.5の他にマグニチュード6以上が2個、5以上が13個発生(合計するとマグニチュード5以上の地震は17個発生)するという極めて激しい地震活動でした。熊本地震がマグニチュード5以上の地震が19個でしたので、熊本地震に匹敵するほどの激しい地震活動であったと言えるでしょう。



2018 2/1 0:0 -- 2018 2/28 23:59

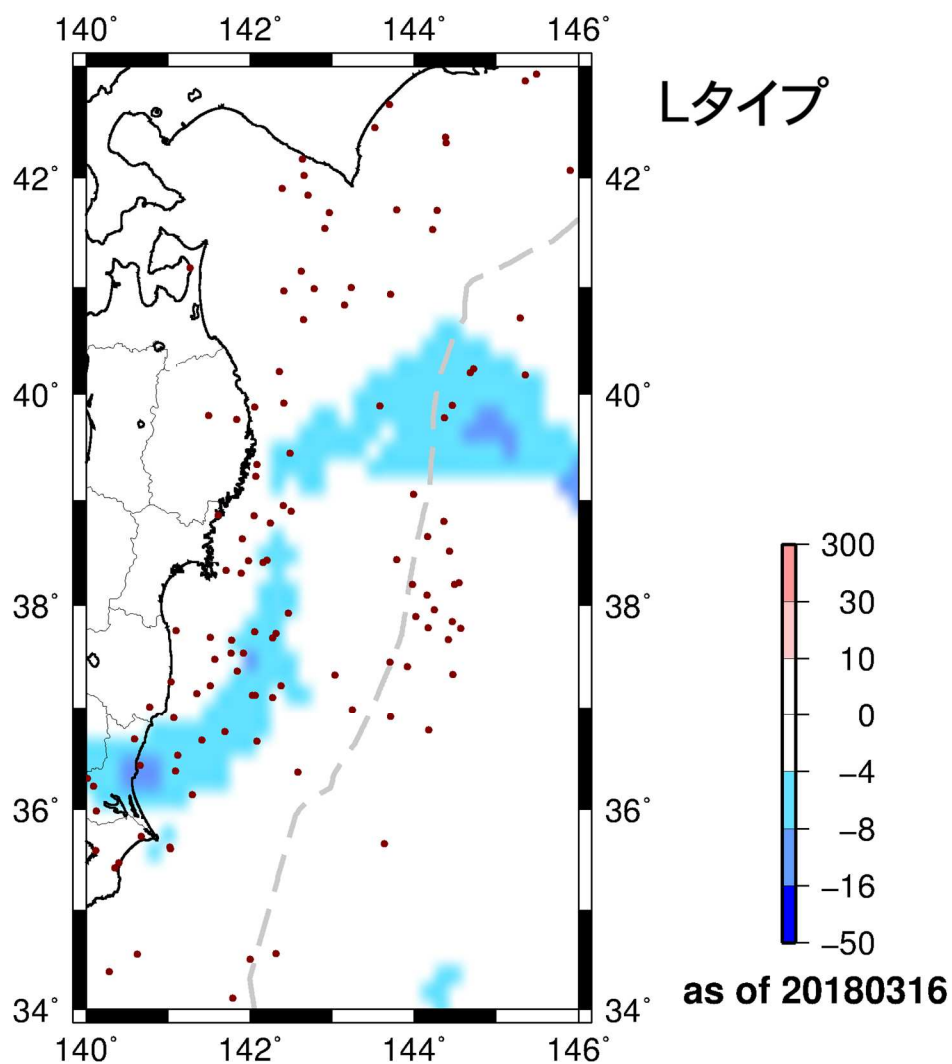


秋田駒ヶ岳の火山活動活発化

仙台管区気象台は、秋田駒ヶ岳で3月6日から低周波地震の発生が続いており、火山活動の高まりを示している可能性があるとして、臨時の火山情報を発表しました。秋田駒ヶ岳で火山活動の指標である低周波地震が観測されたのは、2015年4月以来との事です。

東北沖にターゲットを絞った地下天気図®

2月12日のニュースレターに続き、今週は東北沖にターゲットを絞った地下天気図解析です。図中のグレーの線は日本海溝および千島海溝の海溝軸(一番深いところ)を示します。3月16日時点では、Lタイプ及びMタイプの双方とも、かなり似た静穏化の異常を示しており、現在も異常が続いている事が判明しました。図中の茶色の点は2月1日から3月16日までに発生したマグニチュード3以上の地震です。岩手県はるか沖のアウトターライズ*地域での静穏化現象に対応する地震が発生すると、津波注意報が発令されると考えています。まだ異常が続いている事から、経験的には東北沖での地震はすぐに発生する可能性は低いと考えています(経験的には異常が終了してから発生する可能性が高い)。



★アウターライズとは、東北沖の日本海溝(図中の点線)より東側の地域を意味します。東日本大震災は日本海溝の西側で発生しましたが、今後地震学的に発生が危惧されているのが、このアウターライズ地域での津波を伴う大地震の発生です